

スコアシート		竣工段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数			全体
Q 建築物の環境品質										3.2
Q1 室内環境										2.9
1 音環境				4.0	0.15	-	-			4.0
1.1 室内騒音レベル		40dB(A)<居室の騒音レベル≤45dB(A)		4.0	0.40	3.0	-			
1.2 遮音				4.6	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		遮音性能はT-2とする。		5.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能		Dr-50の界壁遮音性能としている。		4.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境				2.4	0.35	-	-			2.4
2.1 室温制御				3.1	0.50	-	-			
1 室温				3.0	0.38	3.0	-			
2 外皮性能				2.0	0.25	3.0	-			
3 ゾーン別制御性		ゾーン別に冷房・暖房選択可能な空調方式を採用。		4.0	0.38	-	-			
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式				1.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境				2.5	0.25	-	-			2.5
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-			
1 昼光率				1.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口				-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-			
1 昼光制御		ブラインドに底を組み合わせてグレアを制御している。		4.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度		事務室は全般照明750Lxで計画している。		4.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御				1.0	0.25	3.0	-			
4 空気環境				3.2	0.25	-	-			3.2
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-			
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	-			
4.2 換気				3.0	0.30	-	-			
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-			
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御		ビル全体の禁煙は確認されていて、外部にも喫煙スペースは設けられていない。		5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-			3.8
1 機能性				3.3	0.40	-	-			3.3
1.1 機能性・使いやすさ				2.5	0.40	-	-			
1 広さ・収納性				3.0	0.50	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応				2.0	0.50	3.0	-			
3 バリアフリー計画				-	-	-	-			
1.2 心理性・快適性				4.3	0.30	-	-			
1 広さ感・景観		1階事務所のCH=3,000としている。		5.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		執務スペース1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置。		5.0	0.33	-	-			
3 内装計画				3.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		風除室の1次扉と2次扉が同時に開かないように3.2mの距離を確保している。外部に露出する金属部材はガルバリウム鋼板及びアルミ材を採用している。		4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-			
2 耐用性・信頼性				4.1	0.30	-	-			4.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法で定められた50%増以上の耐震性。		5.0	0.80	-	-			
2 免震・制震・制振性能		免震装置を採用。		5.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		1F事務室:床タイルカーペット6.0(OA707H100)、壁ビニロ(下地:PBt12.5)、天井塗装(PBt12.5下地)		5.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		多湿箇所、屋外露出ダクトにガルバリウム鋼板製ダクトを採用。		5.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-			
2.4 信頼性				3.2	0.20	-	-			
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-			
3 電気設備				3.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA。		4.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-			

3 対応性・更新性			4.3	0.30	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1以上0.3未満。	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		4500N/m2以上。	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく更新・修繕可能。	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	適切なEPS、ケーブルラック・配管を敷設し構造を痛めることなく更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	適切なEPS、ケーブルラック・配管を敷設し構造を痛めることなく更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.37	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.80	5.0	0.05	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI _m =非住宅0.72、LED照明設備を導入。	3.8	0.59	-	-	3.8
4 効率的運用			3.0	0.24	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		自動水栓に加えて節水型便器を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用システムの採用。	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		諸室床(フロアarium)、テラス床(ハンディウット)、天井ボード(ダイロートン)	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+軽鉄+仕上材のディールを採用している。	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガスを採用し、ODP=0、GWP=0。	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率=80%	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		隣棟間隔指標R _w が0.5以上。	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	自転車置き場、駐車場及び荷捌き用車両の駐車施設(トラックバース)を確保し、車両の出入り口は2ヶ所設けている。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	点滅をさせず、効率の良い光源の使用を推奨する	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	